

令和5年の日本政治始動

天下大乱の兆しあり

豊島典雄

政治アナリスト
元杏林大学教授

すべては広島サミットに

今年前半の岸田総理の願いは故郷広島でのサミット（先進7か国首脳会議）の成功である。その根回しに1月、仏・英・伊・加・米のサミット参加国を訪問、中露をにらんだ日米欧の連携を確認した。

岸田総理はサミットを「平和や核兵器のない世界を目指すという大きな目標について明確なメッセージを発する機会にしたい」と意気込んでいる。今年の内政の最大の課題は、異次元の少子化対策とインフレ率を上回る質上げでの経済の好循環の実現であるが、岸田総理は、国難を克服し、政治史に名を残せるか。他に注目したい課題は

- ① 114兆円の政府予算の速やかな成立
- ② 統一地方選挙、補欠選挙
- ③ 日銀の黒田総裁の後任人事

④物価高対策

⑤防衛増税の実施時期の決定

⑥旧統一教会への解散請求等の課題だ。

まずは、1月23日に召集された通常国会である。対決法案は？

①原子炉等規制法改正案。安全審査への対応などで停止していた期間を除外し、原発を60年超運転することを可能とする。

②防衛費の財源確保法案。国有財産の売却益等をためておく「防衛力強化資金」の設置を規定する。

③健康保険法などの改正案。出産育児一時金の財源確保等のため、後期高齢者医療制度の保険料を増額する。

今年の重要な政治日程としては、4月9、23日に統一地方選。4月23日に千葉5区等の補欠選挙。

内閣に厳しい民意の中での選挙である。統一教会、閣僚の辞任ドミノの影響がどうか。藪浦健太郎氏が議員辞職

した千葉5区、安倍元総理、岸元防衛

相の山口2区、4区、岸本周平議員が知事に転出した和歌山1区等で補欠選挙になる。岸田総理の通信簿である。負けが多くなれば岸田では総選挙を戦えないとして、岸田下ろしを誘発する。

5月19〜21日 広島市でサミット。

岸田総理は、6月の経済財政運営の指針（骨太方針）策定までに将来的な子ども予算増に向けた大枠を示す。9月に自民党役員人事、内閣改造。

来年の通常国会は増税国会である。増税をにらむと今秋の臨時国会での衆院解散もあり得る。増税の前に信を問うのだ。来年秋は自民党総裁選もある。既に、岸田下ろしの兆しがある。

民意はどうか？

NHK（1月10日発表）では、内閣支持33%（3ポイント下落）、不支持45%（1ポイント増加）。政党支持率は、自民党38・9%、立憲民主党5・

7%。

読売新聞（1月15日発表）では、岸田内閣支持39%（39%）、不支持47%（52%）。政党支持率は、自民党36%（33%）、立憲民主党6%、維新の会3%。

政府が、日本の防衛力を強化するため、これまでの5年間で総額約27兆5000億円だった防衛費を、今後5年間で43兆円に増やすことを決めたことに賛成43%、反対49%。

防衛費を増やすための財源として法人税、所得税、タバコ税の3つを段階的に増税し、2027年度に1兆円強を確保する方針について、賛成が28%、反対63%。

ロシアのウクライナ侵略や、中国の台湾への武力威嚇もあり、世論は総論では防衛力強化にかなり理解が進んでいるが、また、各論の増税で反対の傾向が強い。

岸田総理は少子化対策を大幅に拡充

する方針を示しているが、この方針を評価する58%、評価しない34%。少子化対策を大幅に拡充するための財源として、増税を含めた国民負担が生じることについて賛成38%、反対56%。世論は総論賛成だが、負担には抵抗がある。岸田総理の説得力が試される。

5月の広島サミットで議長を務める岸田総理が各国首脳の中で指導力を発揮できると思う29%、思わない59%。岸田総理の指導力に不安があるのだ。結果を出すしかない。

岸田総理は、経済界に対して賃金の引き上げを要請しているが、今年、全体として賃金は上がると思う37%、思わない57%。世論は、期待するが、現には疑念があるようだ。

政府は今春以降、東京電力福島第一原子力発電所の処理水を、放射性物質を国の基準値を下回る濃度に薄めて海に放出する方針だが、賛成46%、反対43%。

電気料金の高騰、電力不足の危機もあり、世論は処理水放出を容認する傾向にある。

時事通信（1月19日発表）では、内閣支持率は政権発足後最低の26・5%、不支持率は過去最高の43・6%。内閣

支持率が政権維持の危険水域とされる20%台は4ヶ月連続となった。防衛費の増税方針と物価高が影響しているという。

1月23日発表のテレビ朝日では内閣支持率は過去最低の28・1%。岸田総理は、1月に外遊したが、内閣支持率は上がらなかった。

後ろから鉄砲を撃つのか

自民党内で岸田批判勢力が動き出した。二階元幹事長が昨年の12月23日に防衛費の増税は「唐突」に感じるとして「順序が逆転してはだめ」と岸田総理を批判した。防衛費の増額について「今なぜ必要なのか。国民によく理解してもらおう努力が先にある、しかる後に、費用は節約もするが、新たにこういうお金が必要だと、ちゃんと言わなければいけない」と指摘した。菅義偉前総理が1月10日夜、ベトナムで岸田総理を批判した。

岸田総理が、自らの派閥の会長を続けていることについて「歴代総理は派閥を出て総理を務めた」「政治家は自らの派閥ではなく自らの理念や政策を優先すべきだ」「今の状況は国民の声が届きにくくなっているのかなという

懸念を感じている」「少子化対策は極めて重要だと思うが、消費税を増税してやるということ（私は）まったく考えていない」と釘を刺した。現総理をこれほど厳しく批判するのは驚きである。その後も執拗に批判し、党内には「後ろから鉄砲を撃つのか」として、倒閣宣言と受け止める向きもある。

「岸田内閣の危機は深刻で早期退陣もあるとみて動き出した」「岸田総理が早期退陣に追い込まれば、ショートリリーフをできるのは菅か麻生太郎だ」とか永田町雀が騒ぐ。

石破元幹事長も1月13日「派閥を離れることが自民党の良識」と苦言を呈した。連携しているのか。大乱の兆し



リーダーシップがないという理由はどこにあるのか

か？

戦後政治史での評価は？

一方、政権の後見役の麻生太郎副総裁は1月15日に「岸田という『あまり頼りがない』と言われた人の下で、間違いなく日本は世界の中で地位を高めつつある」と評価した。政府が防衛費と関係費を国内総生産（GDP）比2%に増やす方針を決めたことに触れ、「安倍元首相が夢にまで見た数字をさっと決定した。リーダーシップがないという理由はどこにあるのか」と語った。力強い掩護射撃だが、政治は結果を出せるかだ。

竹下登元総理は佐藤内閣時代に私の前で酔って「講和の条約 吉田で暮れて、日ソ協定 鳩山さんで、今じゃ佐藤さんで沖縄返還、10年たったら竹下さん」と歌ったことがあるが、後には、今じゃ角さんで列島改造と変えた。

中曽根内閣は三六社の民営化、竹下内閣は消費税導入で歴史に残る。岸田総理は、党内政局を乗り越え、異次元の少子化対策、インフレ率を上回る賃上げ、防衛力強化（防衛費の倍増）、さらに憲法改正で歴史に残るか。正念場である。